

..... 編集後記

◆真夏の太陽は照りつけていますが、澄みわたった空に微かに雲がすじを引き、七月末というのに秋の気配が漂っていました。「春が来た」、「夏は来ぬ」、「冬景色」と、各季節はそれなりの姿形であらわれます。秋も、「実りの秋」とか「灯火親しむ候」とかいう言い方はありますが、そっと忍び寄る雰囲気をも備えている季節が秋だと私は感じています。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども」。学生時代、8月の初めでした。夜、学生控室の窓を開けたまま本を読んでいたところ、サラサラというか、カサカサというか、軽い音が聞こえてきました。何だろうと耳を澄ませ、外をのぞいたところ、楡(エルム)の葉が風に揺れ擦れあう音でした。「あっ」と小さな驚きの声が出たように思いました。

◆今月号には、石原舜三さんからボリビアとモロッコの鉱床と花崗岩系列の原稿を2篇、ご寄稿いただきました。さらに、松任谷滋さんは、モロッコの地質について物語風にまとめて下さり、グラビアと合わせてミニ海外特集といったものになりました。

小学生の頃の国語の教科書に、ユングフラウとフィンステールホルンとが語りあう場面がでてきました。雄大なアルプスの山々の対話が荘厳なひびきをもってつづられ、次の返事が戻るまでの「またたく間に過ぎる幾千年」という言い回しが心に残っています。松任谷さんの原稿を拝読して、このフレーズを想いだしました。しかしここでは、幾千年ではなくて

「またたく間に過ぎる幾千万年」というスケールです。◆丸井さんの海岸線付近の地下水に関する塩水・淡水境界の話は、6月号の続きで、その3になります。磯部さんの海跡湖のお話も、2月号の続編となっています。磯部さんは、この2篇の投稿の間に北海道支所長から、本所環境地質部長にかわられました。

◆つい先日、中央構造線沿いに高遠から水窪まで車を走らせました。その後、佐久間ダムに寄り、愛知県東栄町、新野峠を経て飯田市に抜けました。途中、信玄ゆかりを示す看板などがあり、遠江、三河へ向かう武田の軍勢はこのあたりを通ったのかなどと想い浮かべておりました。岡村優子さんからいただいた原稿のセリサイト鉱床、栗代鉱山はこの東栄町にあります。原稿を拝見したのが後になったものですから残念ながら通りすぎてしまいました。

◆8月1日付けて、地質ニュース編集事務局でご活躍いただいた吉田朋広さんが工業技術院へ出向されました。6日までは業務課広報係の併任をつづけ、最後の仕事としてサイエンスキャンプの運営に汗を流して下さいました。さらに、彼にはもう一つ最後の仕事として、石原さんの「モロッコにおける地質鉱床と花崗岩系列」の写真1(本誌31頁)にご登場いただきました。2年数カ月の間、地質調査所の広報の仕事にご尽力くださり、ありがとうございました。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・石塚 治・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係(河村幸男・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュース	第540号	1999年	8月号
	発行	1999年8月1日	発行
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
発行所	代表者 林 光生		
	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8		〒102-0073
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 1999 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してありま
す。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ